



「父の約束」

使徒言行録二：11〜16

牧師 安藤 脩

お誕生日、おめでとうございます。何の誕生日でしょうか？ 教会の誕生日です。教会の誕生日のお祭りを「ペンテコステ」と言います。

今日の聖書箇所には「五旬祭」と書いてあります。50日目の祭りです。何から50日目なのでしょう。イエス様が十字架にかかり、死んで葬られ、復活なさってから50日目です。イエス様が日曜日に復活なさり、7週間経った(7×7=49)次の日曜日ですから50日なのです。

でもこの五旬祭は、この日に始まったわけではありません。イスラエル民族がモーセに導かれてエジプトを脱出した時に始まったのです。出エジプト記34章22節には「あなたは、小麦の収穫の初穂の時に、7週祭を祝いなさい。」とあり、又、

2016年夏号
 日本キリスト教団
 横浜岡村教会
 〒235-0021
 横浜市磯子区
 岡村 4-25-39
 TEL045(751)3917
 牧師 安藤 脩

この7週祭は「刈り入れの祭り」(出エジプト23：16)と呼ばれ、過越しの祭りの翌日から始まる除酵祭(出エジプトのとき食べた酵母を入れないパンを記念する祭り)の後に行なわれました。この日が教会の誕生日・聖霊降臨日と呼ばれるようになった由来が、今日の聖書の出来事です。

この日、12弟子たち「彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。：120人ほどの人々が一つになっていた。」(使徒言行録一：14〜15)すると、ゴーツという激しい風が吹いて来るような音が家中に響き渡りました。何の音だ！と皆が驚いたでしょう。それだけではありません。炎のような舌が現れ、一人一人の上にとどまりました。そうです。これは、イエス様が天に帰られる前に語られたことでした。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約

束されたものを待ちなさい。」(言行録一：4)

このとき既に、弟子たちは復活されたイエス様に会って、イエス様が神の子・救い主であることを信じていました。でも、どうして良いか分からないし、行動を起こす力が出なかつたのです。ただ「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」(言行録一：8)とのイエス様のお言葉に希望をおいていました。

そうです。今「父の約束されたもの」が与えられたのです。父なる天の神様が約束してくださっていたものとは「聖霊」だったのです。聖霊が降り、弟子たちは聖霊に満たされました。この時から、無学なガリラヤの漁師や、罪人と同類に思われ蔑視されていた徴税人が、力強く、大胆に語る、イエス・キリストの証人となったのです。

この天の父なる神様の約束は、2000年前の弟子たちに約束されているだけではありません。現代に生きる私たちにも与えられている約束です。

証し

私にとって「洗礼」とは

豊島 雅勇^{まさゆう}

5年前の震災の日は、後から振り返ってみれば、私にとって信仰の大きな契機になった日だと言う事ができます。

交通機関が麻痺したため会社で一晩過ごした後、早朝から電車を乗り継ぎ、帰途につきました。その日はよく晴れた早春の一日でした。暖かい日差しの中を走る電車から見た町の景色は、前日の事がうそのように静かでした。普段の三倍位時間をかけてやっと自宅にたどり着き、家族の顔を見たたん、安堵感から疲れがどっと出て来た事を思い出します。しかしすぐに寝る気にもなれず、テレビをつけると、津波の映像に目がくぎ付けになりました。そして、これまで自分の中にあつた基本的な信頼感のようなものが揺らぐ感覚を覚えました。その感覚とは、この世の中には自分の意志ではどうしようもない事が起こるかもしれない。天災にあうかもしれないし、事故に巻き込まれるかもしれない。と言うような漠然と

した不安感だったと思います。それから五年たち、つい最近、学者の養老孟司氏の言葉を新聞で読んだ時、これは・・・と思つたのです。それは「人間の都合には全くおかまいなしに自然はその（ちから）をふるうことがある。人間は物理的にも心理的にもこれに冷静に対応する準備が必要である。」と言う趣旨の文章でした。今までの自分は平和な社会が当たり前で、あまりにも気楽に人生を過ごしてきたてしまったのではないか。それが当たり前でない事に五年前に気づかされ、不安感と無力感が常に心の底に沈んでいるようでしたが、この文章は一つの答えを出してくれたように感じました。と言うのも、昨年の秋から教会に通う妻と、何度か一緒に行った折、牧師さんのお話を聴いて、イエス・キリストを心に迎える事で、安心感を覚える事に気がつき始めた矢先だったからなのです。

自然の（ちから）に抗うことは人間にはほとんど出来ないが、人間の無力さを自覚して心の備えをする事は出来るかもしれない。最初は洗礼を受けるなんてとても自分には出来ない、無縁な事だと思つていましたが、妻から具体的な話を聞

いて考えていくうちに、ここから始めれば良いかもしれないと思うようになりました。

「わたしはあなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であつて、災いの計画ではない。」（エレミヤ書二九・11）の御言葉は、私に与えられたものだと感じました。今こそ私は神に自分を委ね、神を信頼して心の自由を得るチャンスであると思ひました。

奇しくも四月に熊本地震があり、私の弱い心は、またもや不安に苛まれそうです。しかし、今の私には、信仰する神と教会と仲間がある事を支えとして生きて行く心の備えがあります。私にとって洗礼が確固とした心の地盤を作る最初の一步になりました。これから少しずつ信仰を深めていきたいと思ひます。



2016年3月27日 豊島ご夫妻

証し

洗礼を受けたよろこび

豊島 薫



教会員の皆さんがおめでとうと言ってくさいました。カードやプレゼントをくださった方もありました。神様がずっと私の扉を叩いてくださったので、この日を迎えることができました。

三年前のイースター礼拝に夫と参加しました。偶然、森田智美さんが洗礼を受けられた日でした。帰ってからバプテスマで検索して様々な教会の写真を見ました。つきたてのお餅がとてもおいしかったことや、きれいなイースターエッグの写真撮ってから食べたことを思い出します。

平坦な人生ですが何度か大変な時がありました。何とか切り抜けて来られたのは、今思えば神様が私を探して、助けてくださったからです。子供の頃から手元に聖書があったのに、気づくまでに何十年もかかりました。そしてやっと去年の春から聖書通信講座を受けることにしました。でも入信するためではなく教

養としてね、と自分に言い訳しながらでした。しかし始めてすぐに、「信じます。」と言っている自分がいました。手元の三冊の聖書を並べてみて、導かれていることを確信しました。それから秋になり、

やっと教会に通う決心がついたので。そうなる、なるべく早く洗礼を受けたくなりましたが、もっと勉強を深めてからの方が良いのではないかと、しかしその前に何かあった時後悔するのはいやだなあなどと考えました。夫に、ゆくゆくは洗礼を受けたいと思っていることを話すと、夫は驚いて私の顔を見つめました。その後何度か一緒に礼拝に行きましたが、その間も色々考えて自問していたのかもしれません。クリスマス前に話をした時、次のイースターにお願いしようと思うと言いと、「では私も一緒に」と唐突に言い出したのです。今度は私の方が驚きましたが、とてもうれしかったです。

私はキリスト教と出会うまで、負けるのは仕方ないが損はしたくないと考えて生きてきました。うまく行かない事があると、過去の家族関係のせいにして、自分にはどうすることもできないと思いつつも、もうとじていました。でも、こんな

賢い私なのに、神様が呼びかけ続けてくださったので、扉を開けることができました。

聖書の学びの時、安藤先生がおっしゃいました。誰かに道を尋ねた時、「私もそこまで一緒にいきますよ」と言ってもえたらどんなに心強いでしょう。イエスは「わたしは道である」と言っておられます。神への道を一緒に歩んで行きましょうと言ってくださっているのですから、安心して進めば良いのですよ、と。

だから今生まれかわった私は、全てを神様に委ねて生きて行けば良いのです。これからはこの安心感と幸福とを、身近な人達と分かち合えるよう祈り続けたいと思います。



喜びのイースター



坂本 浩

今年の受難節からイースターは、例年行っている受難週祈祷会（21日～24日）・25日金曜日の受難日礼拝、そして27日日曜日イースター礼拝・午後のもちつき愛餐会という流れでした。特に大きな恵みは、イースター礼拝に3人の方が洗礼を受けられたことでした。式に立ち会うことができ、これまで主が私達に成して下さった、多くの恵みを思い起こし、改めて感謝の気持ち湧き出てきました。また、午後は天候にも恵まれ、近隣の方々や子供たちがもちつき愛餐会に参加し、楽しい交わりの時を過ごすことができました。このような方々の中から主に会い、そして導かれる方が起こされることを願っております。新しい年度に向けて、喜び溢れる気持ちの良い時を過ごすことができましたことを心から感謝致します。



恵みに満ちたイースター

林^{りん} 恵^{けい} 埴^は

私にとつて、イースターはとても懐かしい礼拝日です。

10年前に来日して、初めての礼拝は寒川教会で、ちょうどイースター礼拝でした。いただいたイースターエッグが、今年と同じ絶妙な柄があり、聖句が書いてあり、食べるのが惜しいくらい可愛くて、長期間保管していました。

今年は、横浜岡村教会で初めてお餅つき愛餐会に参加し、お餅つきの伝統活動を体験し、楽しいイースターを過ごしました。その日、お餅搗きの腕前の上手、下手をとわず、老若男女をとわず（ジュニア・チャーチの子ども達まで長い行列で、お餅つきの見学と体験をしていました）、皆さんが、家族のように助け合い、愛し合い、わくわくしながら参加しました。

その日、温かい日差しを浴びていた皆さんは、憂鬱が少しも見えない、皸の一本一本が伸びるような、心からの笑顔が表れていました。それは神様の光が、皆さんの心を照らしていたのでしよう。「疲

れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。」（マタイ十一・28）クリスマスチャンでよかった。岡村教会に来てよかった。私たちのために復活された主・イエス様の恵みをいただき、ありがとうございました。

（林さんは、中国の方で岡村教会に今年1月の終わりに来られました。）



講壇に置かれたイースターエッグ





洗礼式

今年は3名の方々が
洗礼を受けられました。
感謝！



礼拝での子ども達の讚美



午後は楽しいお餅つき

本当に良いお天気で
気持ちの良い一日でした



若者の頑張りが
頼もしかったです



パワフルな婦人方



急ごしらえのかまどで
もち米をふかしました



こうやってつくんだよ



岡村教会の庭で



紅白餅が近隣に
届けられました



佐野兄が作って下さった十字架です。
イエスの血はすべての罪から私達を
清めて下さいます。



お米一杯分を献品し、寿地区に
炊き出し用として届けました。



2016年
4月29日

Happy Wedding



石川新・愛

結婚式を終えて

石川 新

先月の29日、私、石川新と小牧愛の結婚式を横浜岡村教会で執り行うことができました。この日のために自分たちで、一年かけて準備をしました。すべてを整え当日を迎えました。

式が始まると、頭の中が真っ白になり、礼拝堂への入場の仕方や一札のタイムミングを完全に忘れてしまうくらい緊張しました。しかし、職場の人も駆けつけてくれるなど、多くの方に見守られ、とても素敵な挙式となりました。

思い起こせば、小学校2年生の時に岡村に引越してきたことをきっかけに、近くの教会を探して、通うようになり、成長の過程の多くを過ごした岡村教会で挙式をすることができて、とても感慨深いものがありました。その後の披露宴でも神様の導きを感じる事ができました。当たり前ですが、会場にはご招待した、今までお世話になった先生方や職場の友人、親戚の方々でいっぱいになりました。実際に揃っているお顔を見ると、神様が私たちの成長と信仰の道を歩むために、これだけの人たちと出逢わせてくれたのだと改めて思いました。これからイエス様の示される信仰の道を、妻と二人で歩んでいきたいと思えます。



わかえだ会

いちご狩りに行ってきました

森田 智美

5月3日、毎年恒例のわかえだ会春の交わり会で、いちご狩りに行ってきました。参加者はわかえだ会(岡村教会)から6名と清水ヶ丘教会から2名の計8名でした。毎年お世話になっている津久井浜観光農園でのいちご狩りに加えて、今回は三浦にある「小網代の森」で散策や干潟に住むカニやヤドカリを見たりと自然を満喫してきました。ゴールデンウィーク中ということで、交通機関も農園や森も観光客で大混雑でした。でも、教会で週に1度顔を合わすだけではなかなかじっくり話すことの出来ない兄弟姉妹と、1日行動を共にする時間は、お互いの仲を深めるよい機会でした。楽しい時間を与えられたこと感謝。



「小網代の森」でかにがいました



いちごを一杯食べました！おいしかった！



2016年 新役員となつて

●関口勢津子

昨年愛する家族が次々と天国に召され、心の穴を埋めがたくおりました処、新役員の選挙で図らずも私が選出されました。自分の状態や資質も含めてその器でないと思いがらも、私のために皆様が与えて下さったという思いが勝り、お受け致しました。神様の助けを戴き頑張ります。



●関原孝子

2月28日(日)の臨時教会総会で、今年度の役員に選ばれ、拡大役員会において礼拝部、営繕部の奉仕の担当となりました。すべて初めての事で、不安ですが、これは主の任命と信じ、共に居て導いて下さる主に依り頼みます。微力な者ですが主の与えてくださった任期を全う出来る様、祈りつつ務めたいと願っています。

●安藤善枝

新しい年、教育部の役員として奉仕させて頂きます。ジュニアチャーチは新しい子ども達が増えてきていますので、よくフォローしていかなければと思います。信徒研修会やアシラム等の働きを通し、一人一人に霊的成長が与えられるように祈って進みたいと思います。

故内出キミ子姉を偲ぶ(享年92才)

牧師 安藤 脩



2015年度は、教会の草創期から共に歩まれた方々が次々と召された。内出キミ子姉もその一人である。内出姉は主日礼拝の講壇の活花を長年、忠実に奉仕くださった。年齢に似合わずお元気であられた内出姉でしたが、数ヶ月前から、だいぶ弱ってこられたな〜ということも、誰でも感じるようになっていた。

2月21日は三教会交流講壇交換のため私は横浜菊名教会に行っていた。礼拝の始まる前に携帯電話が入った。今頃なんだろうと、いぶかしく思いながら妻からの電話を取った。「内出キミ子姉が危篤状態で市大病院に入院された」と息子さんから電話があったとの知らせであった。礼拝を終え、帰る道沿いにある市大病院へ直行した。そこに二人のお子様・浩爾さんと敦夫さんがおられた。そして既にお母様は召され、亡がらは直接教会に運びたいと言うので、私は教会に戻り、お迎えの準備を整えた。

2000年に御主人の栄兄を救いに導き、天に送られた。気掛かりは残されるお子様方であつたらう。その遺志を私たちが引き継がねばと祈っている。

内出姉の思い出

川村 美枝

内出姉とは33年余りのつき合いで、会社の先輩でした。23年前長男が中3の春の時、釣りでおぼれた時は長い手紙を下さり「助かるよう神様に祈ってます」と愛あふれる文章に励まされました。一年の入院生活を終え長男は、日野養護学校を経て、本牧の作業所に長く通いました。彼は記憶喪失の為、100回以上は迷子になって(違ったバスにのってしまふので)主人といっしょに苦労していました。ある時内出姉が「岡村教会にすれば何かいいことあるみたいヨ」とおっしゃってくれました。岡村教会に「ろばの店」という作業所ができ、岳父は第一号で入所しました。おかげさまで迷子にならなくなりました。3年前に洗礼も受けられ、最高にうれしい。キミ子姉は我家の恩人です。残された内出姉のこうじ、あっちゃん兄弟に、少しでも淋しくないよう「私を母親だと思つてネ」と伝えました。キミ子姉は絵画と活花が大好きでした。キヤリアウーマンだった上に、芸術的で本当にすてきな人生だったなあと尊敬しています。昔はシャキツとしてチャームングで、私の同級生ですと紹介した事もあつた位若々しかったです。

6～8月 行事予定

6月

- 4日 春のランチオン
ゲスト・町田俊之師
- 12日 JC花の日礼拝
- 15日 三教会統一祈祷課題祈祷会
- 19日 JC父の日招待礼拝
- 26日 讚美奉献礼拝
チャペル・コンサート(安田正昭氏)

7月

- 16～17日 第35回岡村アシュラム
証者・奥山清子姉(更生教会員)
- 24日 三教会交流講壇交換(愛澤豊重師)
- 31日 DVD鑑賞会

8月

- 6～7日 JC夏期学校(教会)
- 7日 平和聖日
- 14日 創立記念礼拝(証し・増田篤子師)
- 15～18日 安藤師夏季休暇
- 29～31日 こころの友伝道全国大会
(神戸・シーバル須磨)
- (毎月第1主日 聖餐式、役員会)
- (毎月第4主日 各会の定例会)



JCの窓
(ジュニアチャーチ)

絵本の読み聞かせ

安藤 善枝

5月1日(日)のJC
礼拝後、誕生会。それに
引き続き、教会員の杉田
稔さんが本の読み聞かせ

をして下さいました。賑やかにしていた
子ども達も、ゴザの上に座ると静かにな
って杉田さんのお話しに聞き入りました。
今回は、「きょうかいのはじまり」「盲
導犬になったクイール」の2冊を読んで
頂きました。絵を見ながら生の声で本を
読んでもらう事は、そこに暖かい空気が
流れ、創造する力が養われていくような



感じがしました。貴重な時間でした。
又、杉田さんには、時々お願いしたい
と思います。楽しみにしててください。



JC母の日に*お母さんにカードのプレゼント



杉田さんを囲んで

集会案内

◎春のランチオン：6月4日(土)

午前10:00～午後1:30 入場無料

講師・町田俊之師(B&A代表)

聖書に基づいた絵画作品を、聖書の意
味と画家達の生涯の歩みから読み解い
ていきます。(講師記)

軽食あり。お気軽にどうぞ。

◎第3回安田正昭ピアノコンサート

6月26日(日)午後1:15～2:30

入場無料 ご家族でどうぞ。

モーツァルト ソナタ イ長調 K 331

トルコ行進曲付き)他

午前10時30分からの讚美奉献礼拝で
も演奏があります。

編集後記

教会総会も終わり、新しい年度がスター
ト致しました。今年もたくさんの方々が盛
り込まれていますが、これらを通しながら、
更なる福音の前進がありますようにと祈り
にも力が入ります。岡村の泉にも沢山の
方々からの寄稿、感謝致します。

新緑の美しい季節です。
創造主なる主を褒め称
えます。
(Y・A)



山藤が沢山
咲いていました



わかえだ会
小網代の森散策